

## 評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103854
法人名	医療法人ビハーク 藤原胃腸科
事業所名	グループホーム アショカ
所在地	松山市南吉田町964番地1
自己評価作成日	平成28年8月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・日中の支援を充実させる為に夜間入浴体制をとっている。                  ・入居者さんの希望があれば「明日」ではなく「今日」叶える。</p>
---

<p>入居前の習慣と同じように、夜間入浴を基本としており、概ね一日おきに入浴できるよう支援している。ひとり入浴の方には、浴室の外で見守り、熱めの湯温やぬる目の長湯等、個々の好み等に沿って支援している。ゆっくり入浴し、歌を歌ったり、職員と話しを楽しむ方もいる。                  1年半前より、ホーム長と各ユニット毎に管理者を配置し、職員が日頃から相談しやすいような体制を整備している。毎月、ユニット毎にカンファレンスを行っており、職員からの提案には、「どうしたらできるか」の視点で全員で話し合い採り入れている。                  一緒に入居していたご主人が亡くなった利用者には、職員がお墓参りに付き添い支援している。さみしい様子が見られるような時には、職員から声をかけて、思い出の場所やドライブに出かけられるよう支援している。毎月、県外から家族の訪問がある方は、家族が馴染みの美容院へ連れて行ってきている。家族から母の日等、贈り物が届いた際には、本人からお礼が言えるように、電話等の中継ぎをしている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・アショカ

(ユニット名) 日輪

記入者(管理者)

氏名 東 みどり

評価完了日 H28 年 8月 18日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  理念は共有しているが、実践については、職員としては至っていない。	
			(外部評価)  前回の外部評価結果を受けて、職員皆で話し合い、新たに「一人一人の想いをくみ取って 生活を豊かに 人として当たり前の関わりを支援 地域との繋がりを大切に し 支え合う関係作り」と、事業所理念をつくっている。又、行動指針をユニットごとにつくり、居間に掲示している。今後は、チームで理念を共有して、協力し合って利用者の暮らしを支えていってほしい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  地域の社協の方が1ヵ月に1回、草挽きに来てくれたり運営推進会議、夏祭り、地方祭、小学生との交流など行っている。	
			(外部評価)  恒例の夏祭り時には、地域の方が来て利用者に浴衣を着付けてくれたり、交通整理等を行ってくれたりしている。地方祭時には、中庭に神輿を入れてもらい、近所の方や子供たちと一緒に見物した。年間計画を立て、小学校と年3回交流を行っている。地区の敬老会には、2名の利用者が参加できるよう支援した。事業所の会議室は、地域の方も利用することができる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  運営推進会議等で認知症予防の講義や体験をしたりしている。また1年に1回、地域フォーラムを開催し認知症への理解の活動を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者の状態やサービスの内容は常に報告し、会議へ参加して 頂いている方々の意見を伺って参考になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議には、区長、民生委員、自主防災組織の方や家族等が参加している。事業所から利用状況の報告や事業所便りを用いて活動を報告後、テーマに沿って意見交換を行っている。又、百歳高齢者表彰を受けた利用者が参加して、歌を披露する機会を作ったり、夏祭りの行事と合わせて会議を行うこともある。参加者の意見を採り入れて作成した防災マップは、必要時に会議で話し合い更新している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に参加して頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時に、市や地域包括支援センターの担当者からテーマに沿って情報提供がある。又、センターの役割や地域の高齢者の情報を報告してもらい、皆で意見交換する機会を設けた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束をしないケアを職員間で協力し合って取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>年1回、法人研修で身体拘束について勉強しており、当日勤務者以外は全職員が参加している。欠席者には、ホーム長が研修資料に沿って説明している。転倒の危険がある4名は、センサーマットを設置して対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  研修に参加し、職員間での情報の共有を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  研修で学ぶ機会はあるが、実践の機会はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  見学に来られた時から、本人や家族の不安や望むなどを聞くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  運営推進会議等で家族の方々に参加してもらい、意見を出して頂き、それらの意見を運営に反映させている。  (外部評価)  毎月、系列グループホームと共同で事業所便り(ホームページにも掲載)を発行している。夏祭りや敬老会、餅つき等は、皆で一緒に楽しめるよう案内している。家族会は、家族だけで話す時間を設けており、家族の代表者等も決めている。家族会の内、1回は、利用者と一緒に外食に出かける機会を持っており、家族同士で交流したり、職員も家族とゆっくり話ができる機会にもなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月のカンファレンスで、意見、提案を言える時間があり反映させている。	
			(外部評価)	
			1年半前より、ホーム長と各ユニット毎に管理者を配置し、職員が日頃から相談しやすいような体制を整備している。毎月、ユニット毎にカンファレンスを行っており、職員からの提案には、「どうしたらできるか」の視点で全員で話し合い採り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			左記のように行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			各個人にあった研修の機会や参加を進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			事業所連絡会や相互研修などの機会もあり、全員ではないが取り組んでいる。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人、家族の話しを聞いて情報収集を行う等、関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)  見学に来られた時から、本人や家族の不安や望むなどを聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)  要望があれば「訪問マッサージ」「訪問歯科」などの利用が出来る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)  コミュニケーションを取りながら、個々に出来る事を日々、考えながら支援し、関係作りを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)  行事の時などはご家族に連絡を入れて参加を呼びかけ、一緒に過ごす機会を作っている。 体調の変化、出来事について、出来るだけ情報を伝えるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)  左記のように行っている。  (外部評価)  一緒に入居していたご主人が亡くなった利用者の方には、職員がお墓参りに付き添い支援している。さみしい様子が見られるような時には、職員から声をかけて、思い出の場所やドライブに出かけられるよう支援している。毎月、県外から家族の訪問がある方は、家族が馴染みの美容院へ連れて行ってくれている。家族から母の日等、贈り物が届いた際には、本人からお礼が言えるように、電話等の中継ぎをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  入居者さん同士が関わり合える場面を作り、一緒に行動して楽しんで頂ける支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  入居者さんが亡くなった後でも、ご家族が来られることもある。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  カンファレンス前に本人より望みを聞いている。又、家族の望みや職員の気づきで検討している。  (外部評価)  日々のかかわりの中で声をかけ、利用者個々の思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。知り得た情報は日々の介護記録に記入し、職員の気づきには、赤色の波線を引き共有している。調査訪問時、「話したいことがあります」とホーム長に希望を話している利用者の様子が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  ご家族や親せきの方に話を聞いたり、基本情報シートやサマリーなど、記録で把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  日々の記録を見たり、職員間の情報の共有で現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3か月に1回ケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。 体調の変化や状態の変化があれば、プランの変更を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日々の介護記録に写真を添付しており、家族来訪時には、見てもらいながら現況を報告したり、意見や要望等を聞き取ったりしている。本人や家族からの希望や職員の気づきをもとに、センター方式の5つの視点から立案シートを作成し、職員で話し合い、担当職員が介護計画を作成している。介護計画は、日々の介護記録にファイルして共有しており、毎日モニタリングを行い、3ヶ月毎の計画の見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアポイントに上げて、見直しに繋がるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>左記のように行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>草挽きボランティア、地方祭、みこし入れ、生石小との交流、三線・タクティールボランティアなど心身の力を発揮し楽しめるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)		
				適切な医療を受けられていると思う。	
			(外部評価)		
				年1回、健康診断を行っている。血糖値が高い方は、好物の甘いものをどこまで制限するか、医師や家族と話し合い、食事量、日中の運動量等についてのアドバイスや意見を採り入れて介護計画を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)		
				看護師が常勤しているので、相談できる。	
			(外部評価)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)		
				入院時、サマリーで情報を提供している。	
			(外部評価)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)		
				状態の変化があった場合には、ご家族、Dr、職員などで面談し 今後の方向性を話し合っている。	
			(外部評価)		
				今年は2名の方の看取りを支援した。一人の方は、遺言書の内容にある「延命措置はしない」という意志に沿って、主治医、家族、職員間で話し合いを重ね、家族の希望も尊重して支援に取り組んだ。職員は家族に対し、早めの連絡を心がけた。みなの声が聞こえる馴染みの生活の雰囲気の中で過ごせるように、居間の畳スペースで最期まで支援した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			法人、地域、消防での訓練に参加し研修している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回避難訓練を行い、入居者さん、地域の方、職員全員が身につけられるように訓練参加している。	
			(外部評価)	
			火災や地震、重信川の増水等、様々な災害に備えて避難訓練を行っている。訓練は、運営推進会議時に実施しており、その際には会議の参加者以外に、近所の協力者数名も参加している。災害発生時には、事業所が地域の避難場所として提供できることや備蓄があることを伝えている。又、近所の3階建て住宅の方が、必要があれば「避難場所として使用してほしい」と言ってくれている。地域の防災訓練にも参加している。	訓練後の話し合いで「マニュアル通りに訓練は出来ているが、現実となると利用者の精神状態も含めて不安がある」という意見が出ている。ホーム長は今後、「防犯訓練も検討していきたい」と話していた。いざという時に慌てず対応できるように、日頃の中でも意識を高めていけるような取り組みをすすめてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			入居者さんが分かる言葉で、個々に合った声掛けを行ったりしている。	
			(外部評価)	
			テーブル席は、利用者同士の関係性を踏まえて決めている。生活場面の中で、自己決定したり、したいことができるように、職員が個々の状態に合わせて声かけをしている。大正琴が趣味の方には、職員と一緒に練習を行い、皆の前で披露できるよう支援している。日々の記録は家族に見てもらうため、他利用者の名前はイニシャルで記入している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			職員の決めつけではなく、入居者さんが選択出来る声掛けを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切に、希望に添って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で選択出来る方は自分で選んだ服を着て頂いたり、馴染みの美容室に行かれる方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりに合った準備、片付けを行えるように声掛けを行ったり、又、週に1回は調理を行っている。	
			(外部評価) 食事の献立は、職員が1週間ごとに交代して立てており、調理専門職員が、1ヶ月毎にユニットを移動して調理している。事業所の畑で採れた野菜を食材に利用している。週1回、利用者が調理にかかわる「調理の日」を設けている。重度の方には、前もってメニューを伝えたり、食事ができる様子や匂いを感じられるように支援している。昼食時には、職員が利用者の間に座って、同じものを食べながら介助をしたり、先日行った芋掘りの話題を出してゆっくり食事ができるような雰囲気をつくっていた。食後は、下膳や食器洗い、食器拭きをしている利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量が少ないと思ったら記録に残したり、補助食を検討したり、食事形態などの検討も行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行い、夜間は義歯は洗浄剤に入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  日中は定期的に声掛けをして促したり、誘導したりとトイレでの排泄に努めている。  (外部評価)  トイレの入口の扉には、赤色のビニールテープで大きく「トイレ」と書いている。一時、尿意のある方も一斉にトイレ誘導していたことがあったが、他職員の気づきをきっかけに話し合い、現在は、個々の状態に応じた誘導等をして支援している。排泄備品は、必要性や適切性を随時話し合い、申し送りで伝えたり、記録して情報共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  排便状態を記録し、職員間で情報を共有し、個々に合った対応に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  夜間入浴体制を取っている。 本人の希望に添って、毎日入浴される方もいる。 介助が必要な方も、ゆっくりと入浴してもらっている。  (外部評価)  入居前の習慣と同じように、夜間入浴を基本としており、概ね一日おきに入浴できるよう支援している。ひとりで入る方には、浴室の外で見守り、熱めの湯温やぬる目の長湯等、個々の好み等に沿って支援している。ゆっくり入浴し、歌を歌ったり、職員と話しを楽しむ方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  一人ひとりの状況により、居室やソファで休んでもらう事もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 作用、副作用について職員間で情報共有し、確認し合っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で本人から聞いたり、ご家族より話を聞く。又、職員の気づきを共有し力を活かした支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 入居者さんと相談し、ドライブに出掛けたり、喫茶店など楽しみ、気分転換が出来るように支援している。  (外部評価) 日常的に近くの公園まで散歩している。外出行事は、職員が年間計画を立てて支援している。ユニット毎に週3回、ドライブの日をつくっており、利用者の希望を採り入れ、季節の花見物や外食等に出かけている。利用者個別の希望に応じて、買い物やドライブに行くこともある。調査訪問時の午後、地域の方が世話している川沿いの秋桜を見に、ドライブがてら出かけていた。昼食時には家族が食事介助に来ており、昼食後は、ご夫婦で中庭に出て散歩をしていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方はお金は所持していない。(ご家族の意向にて)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族の希望により携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人が理解できる言葉で表示している。居心地の良ように席替え、ソファの位置を変更している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>中庭を囲んで両ユニットが設置されており、日頃から、ひなたぼっこや散歩、お茶を楽しむ等、気軽に出て活動している。散歩道には、季節毎に楽しめる草木や、お地藏さん、灯籠等が配置されている。室内には、利用者が活けた生花を飾っている。週1回掃除の日を設け、窓拭きや障子張り、冷蔵庫の掃除等、利用者と一緒にしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>いろいろな所に椅子やソファを置き、自由に座れるように工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの家具や仏壇、テーブル、椅子、家族の写真などを飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口には、利用者個別に、災害時の避難方法を記入した用紙を貼っており、用紙をはがして避難確認ができるように工夫している。自室を迷う利用者には、本人の居室のみ入り口の扉を開けておき、迷わないような環境づくりに工夫をしている。100歳高齢者表彰を受けた方は、表彰状と記念品の銀杯を飾っていた。夏目漱石の小説の一節を毛筆で書いて飾ったり、お好きなアイドルのポスターを壁に貼って眺めたり、CDを聞いたりして楽しむ方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>左記のように行っている。</p>	